

安全データシート

東洋グリーン株式会社
作成日 2023 年 4 月 28 日
改訂日 年 月 日

製品名	TG フォスファイト
1. 製品及び会社情報	
対象物の名称	
製品名	TG フォスファイト(生第 107887 号液状肥料 RT-3)
英名	TG Phosphite
社内 SDS 整理番号	202304B
製造元	
会社名	ラクトップ有限会社
住所	滋賀県大津市大萱 1-18-11
電話番号	03-834-8910
販売元	
会社名	東洋グリーン株式会社
住所	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-33-8
電話番号	03-3249-7731
担当	毒物劇物取扱者
用途	
本製品は、主に芝生地に用いられる肥料（液肥）である。	
2. 危険有害性の要約	
ピクトグラム	なし
注意喚起語	なし
危険有害性	なし
注意書き	なし
GHS による危険性・有害性の分類	
① 危険性	
爆発物	分類できない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高圧ガス	区分に該当しない
引火性液体	分類できない
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	分類できない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類できない
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性化学品	分類できない

鈍性化爆発物	区分に該当しない
② 有害性	
急性毒性：経口	分類できない
急性毒性：経皮	分類できない
急性毒性：吸入（気体）	分類できない
急性毒性：吸入（蒸気）	分類できない
急性毒性：吸入（粉塵）	区分に該当しない
急性毒性：吸入（ミスト）	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない 酸性物質のため、皮膚刺激のおそれ
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	分類できない 酸性物質のため、眼への刺激・炎症のおそれ
呼吸器感作性または皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回暴露）	分類できない
特定標的臓器毒性（反復暴露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない
③ 環境に対する有害性	
水生環境有害性 急性（急性）	分類できない 水生生物に有害(亜リン酸カリウム)
水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない 水生生物に有害(亜リン酸カリウム)
オゾン層への影響	分類できない
分類以外の有害性	飲み込むと有害 リンを含有しているため、水域への排出は富栄養化の原因となるおそれがある

3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物	
一般名	なし	
成分名	CAS 番号	含有量
亜リン酸 2 水素カリウム (H ₂ KO ₃ P)	13977-65-6	P ₂ O ₅ 換算 30%以上、K ₂ O 換算 20%以上

4. 応急措置

応急措置	
一般的助言	直ちに汚染された衣服を脱ぐこと。
吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し安静に努める。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	水を用いて洗浄する。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。薬液の付着した衣服は脱ぐこと。衣服は再使用の前に洗うこと。
眼に入った場合	清浄な流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合、眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をゆすぐ。口を正常にした後、十分な水を飲む。意識がない場合には何も飲ませないこと。医師の診断があるまで無理に吐かせようとしないこと。
重要な症状と影響 医師への注意事項	本製品は有害性に関して非分類であり、重大な症状は予想されない。 症状に応じた治療を行う。

5. 火災時の措置

消火剤	粉末、泡、二酸化炭素、霧状水等周囲の物に適正な消火剤を用いる。特殊な消火剤は必要としない。
使ってはならない消火剤 火災時の特定危険有害性	棒状水を用いない。（周辺への飛散） 知見なし (CO ₂)が発生する可能性がある。
特定の消火方法	可能であれば製品を火災区域から移動させる。不可能な場合容器及び周囲に水をかけて冷やす。 漏出した物質や消火剤等が河川等に排出されないように配慮する。 消火活動は風上から行う。
消火を行う者の保護	消火作業では適切な保護具（陽圧式呼吸具、手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	「8. 暴露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。眼と皮膚に付着しないよう注意する。風下の人を避難させる。漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項	安全が確保された後に、河川、湖沼、地下水等に流入しないようにする。流入する場合は、関係当局に連絡する。
除去方法	漏出物を除去する際に、必要に応じて個人用保護具を使用する。 少量の場合は、不活性吸収材（砂、シリカゲル、結合剤、おがくずなど）を用いて吸収させるか、シャベル・掃除機などを用いて回収する。 多量の場合は、適切な容器に回収し廃棄する。汚染表面を丁寧に清掃し、残留物を水で洗い流す。二次災害の防止環境規制を遵守すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	「8. 暴露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。作業は換気の良い場所で行う。
安全取扱注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。 マスク、保護衣、保護靴、保護手袋、保護眼鏡等を着用する。 作業後はうがいし、手を洗うこと。作業場での飲食、喫煙を避ける。 接触、吸入または飲み込まないこと。 環境への放出を避けること。
保管 適切な保管条件	蓋をしっかりと締め、換気が良く、乾いた室内の冷暗所に保管する。混合を避ける物質を遠ざける。子供の手が届かぬようにすること。適正なラベルを添付した容器に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	
日本産業衛生学会 2017	（製剤）設定されていない
厚生労働省告示	設定されていない
暴露限界	製品については既知の暴露限界はない
含有成分の暴露限界	暴露限界値を持つ物質を含まない
曝露防止	局所排気装置の設置、設備の密閉化、または全体換気を適正に行うことが望ましい。シャワー、眼の洗浄設備を備えることが望ましい。
保護具	
呼吸器の保護具	防塵マスクを着用する
眼の保護具	保護眼鏡（ゴーグル型）、保護面

皮膚及び身体の保護具
適切な衛生対策

長袖保護衣、保護手袋、保護眼鏡を着用。
取り扱い後は手を良く洗う。汚染した衣服は他のものと別に洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	澄明液体
色	無色もしくは淡黄色
臭い	-
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点および沸騰範囲	データなし
可燃性	不燃性
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	不燃性
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	約 4.0-5.0
動粘性率	データなし
溶解度	水溶性
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	約 1.4g/cm ³
相対ガス密度	データなし
粒子特性	該当しない

10. 安定性及び反応性

反応性	強熱により、リン酸化物が発生する可能性がある。 強アルカリ性物質と混触すると、激しく反応する。 規定・指示通りに保管・取り扱いすれば、危険な反応はない 金属に対する腐食性はない
安定性	通常の使用条件、輸送条件で安定
避けるべき条件	子供の手の届かぬようにする。高熱、引火元を避ける。 可燃性物質、強酸、酸化剤、強アルカリ物質との混合を避ける。
危険有害分解生成物	適切な条件で取り扱われ、保管された場合、危険な生成物は知られていない
他の物質との重合	データなし

11. 有害性情報

急性毒性推定値 (ATE)	成分 (経口)	300mg/kg < LD ₅₀ マウス
	成分 (経口)	3200mg/kg < LD ₅₀ ウサギ
	成分 (経口)	980mg/kg < LD ₅₀ ラット
	吸入毒性 (製剤)	製品としてデータはないため「分類できない」とした。
局所効果	眼刺激性	酸性物質のため、眼に入ると、刺激・炎症のおそれがある。
	皮膚刺激性	酸性物質のため、皮膚に付着すると、刺激が現れることがある。
感作性		データなし
慢性毒性 (最大無作用量)		データなし
発ガン性		データなし
変異原性		データなし
催奇形性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性	単回暴露	データなし
特定標的臓器毒性	反復暴露	データなし

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性	水生生物に有害。(亜リン酸カリウム)
水生環境慢性有害性	長期的影響により水生生物に有害。(亜リン酸カリウム)
分解性	データなし
生体濃縮性	データなし

1 3. 廃棄上の注意

廃棄の方法	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体に委託して処理する。
容器・包装	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 容器・包装を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	該当しない
国連番号	該当しない
国際海上危険物規程	該当しない
国際民間航空機関危険物輸送規則	該当しない
国内規制	陸上輸送、海上輸送、航空輸送に制限はない。
航空法規則	該当しない
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない
輸送の特定の安全対策及び条件	転倒、落下、摩擦等で包装が破損しないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行い、有蓋車又はシート等を掛けて運搬する。水濡れを避ける。

1 5. 適用法令

肥料法	該当する (生第 107887 号液状肥料 RT 2023 年 3 月登録)
労働安全衛生法	該当しない 名称等を通知すべき危険物及び有害物
	該当しない 名称等を表示すべき危険物及び有害物
毒物および劇物取締法	該当しない
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
航空法規則	該当しない
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない
輸出貿易管理令 (キャッチオール規制)	該当する (第 31 類 肥料)
SOLAS 条約 (海上人命安全条約)	該当しない

1 6. その他の情報

引用文献等: 15710 の化学商品(化学工業日報社)
ポケット肥料要覧(財団法人農林統計協会)
化学物質管理促進法対象物質全データ(化学工業日報社)
労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ(化学工業日報社)
安衛法化学物質(化学工業日報社)
GHS モデル SDS 情報(中央労働災害防止協会安全衛生情報センタ-HP)
原材料 SDS

この安全データシートはラクトップ有限会社から提供された SDS（2023/4/21）を元に JIS7073（2019）に準拠して作成したものです。

安全データシートは、化学製品を安全に取り扱うための参考資料として、この化学製品を取り扱う事業者提供されるものであり、安全を保障するものではありません。また、記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。

この安全データシートは、一般に入手可能な情報および自社情報に基づいて作成しておりますが、本製品に関するすべての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は本製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取り扱う事業者は、個々の取扱いの実情に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この安全データシートを活用されることをお願い致します。

以上